

# 教育カウンセラー

## JECA JSEC

### CONTENTS

巻頭言・コロナ禍に仲間とつながってストローク

交換を！・荻間澤 勇人 1

私の研究シリーズ②①・松崎学 2

支部実践報告

北海道支部・吉田ゆかり 3

秋田支部・阿部千春 5

青森支部・尾崎洋子 7

富山支部・水上和夫 9

埼玉支部・吉田隆江 10

東京支部・齊郷敦子 12

愛知支部・天野吉繁 16

京都支部・林まゆみ 18

大阪支部・米田薫 20

学会紹介シリーズ⑦

自主研修会「この指とまれ」 23

現場訪問シリーズ⑨

公認心理師・GCとしての活動 23

活動報告・日本教育カウンセラー協会 24

・日本教育カウンセリング学会 24

### 巻頭言

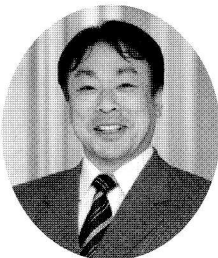
#### コロナ禍に仲間とつながってストローク交換を！ ——支部オンライン研修の活発な開催への期待——

JECA理事, JSEC事務局長 秋田県支部長  
会津大学 文化研究センター長 教授 荻間澤 勇人

新型コロナウイルス感染防止のため、2020年11月22日(日)、23日(月)に秋田市で開催予定でした「日本教育カウンセリング学会 研究発表大会」を2021年に延期しました。日本教育カウンセリング学会(JSEC)の学会員の多くが学校教育にかかわっており、完全な感染防止対策がとれない状況で、全国から集まって会を開くことは、学会員をはじめ、子どもたちや学校組織に大きな影響を与える可能性があるかと判断したためです。学会員の皆様に御理解をお願いいたします。

研究発表大会は学会員の教育カウンセリング活動を交流する目的で年に1度開催されています。貴重な機会がなくなったことは誠に残念です。現在、延期した秋田大会について、実行委員会の秋田県教育カウンセラー協会が2021年11月開催の予定で立案中です。新型コロナウイルスの影響が予測できないため、オンラインによる開催を検討しています。詳細は来年3月ごろにお知らせいたします。なお、研究発表大会にはJSEC学会員はもとより、日本教育カウンセラー協会(JECA)の会員の皆様の参加も歓迎いたします。

2020年度はコロナ禍でJSECの活動のほとんどを延期・中止としました。大人数での集会の禁止や会場確保のむずかしさ、学会員の健康安全面への配慮等が理由です。研究発表大会や公開講演会&シンポジウムで年に1度お会いしていた会員の皆様とお会いできない状況に、何か寂しさを感じて元気がでません。おそらく同様に感じて



いる学会員の方がいらっしゃると思います。それは、交流分析でいう「ストローク」が不足している状態だからだと思います。人はストロークを交換し合うことで元気の源を得ることができます。今回、改めてJSECの定期的な活動を通じた交流がととても大切であると感じています。

私は、会津地区で定期的に研修会を行って、学習仲間とストロークを交換してきました。これまで対面形式のときは50名くらいの参加者でしたが、10月にオンライン研修会に変更したところ、参加者が5名と激減しました。激減したのは、教員がオンライン(Zoom)に慣れていなかったり、環境が整っていなかったりしたことが理由でした。それは、参加者5名中4名が、Zoomが初めてだったことからわかります。大学や企業ではオンラインの利活用が進んでいるようですが、教員はまだ遅れているようです。

自粛生活のために研修会への参加が減ったJECAおよびJSECの会員が多いと思います。JECAは10月に教育カウンセラー養成講座をオンラインで開催しました。また、「キャリアコンサルタント」などの国家資格でも資格更新研修をオンラインで開催しています。これらのように今後はオンラインの利活用が促進されると思います。JECAおよびJSECの会員の皆様がオンラインの利活用に積極的に取り組まれることを期待します。

最後に、JECAおよびJSECが“グループ”にこだわるのは、國分康孝先生による「個別面接だけがカウンセリングだとは思ってはならない。集団体験(グループプロセス)には面接では得られぬよさがある」との考えを範とするからです。また、國分先生は、集団体験の形態の1つとして、「グループレアニング(仲間同士での学習会)」をあげられました。私は、支部主催の「オンライングループレアニング(オンライン研修会)」が活発に行われ、仲間とつながってストローク交換が促進されることを期待します。また、オンライン研修会を通じたスキルアップによって、来年のオンライン研究発表大会が盛会になることを期待します。

【引用文献】國分康孝『学級担任のための育てるカウンセリング入門』図書文化 1997

とモチベーション十分な方々が参加していることで、これらの点が補完されていると思った」

等、オンラインの講座に慣れてきている様子が伺えた。

## 6 面接技法講座応用編（9月6日）

HKKでは、中級試験の個別面接対応（試験当日の実技免除）の講座を、基礎編と応用編に分けて行っている。今年度は2月2日に基礎講座は終わったが、3月8日に行う応用編が、緊急事態宣言のため延期になっていた。今回、オンラインで応用編を行った。

### <内容と工夫>

事前接続テスト、動画チェック	9月6日
セッション1	オリエンテーション グループシェアリング 課題演習（ビデオと逐語でSV）
昼食	
セッション2	面接演習① 面接実習（ライブSV） グループシェアリング
セッション3	全体シェアリング （オンライン飲み会）
閉講式	

応用編では、各自が行った面接動画を見て、SVを受ける。この動画をどのように共有するかが大きな課題であった。自分のPCに取り込んでも画面がスムーズに動かない場合もあり、YouTubeの限定公開で共有するなど工夫した。『Zoomアプリの手引き～面接技法講座版』を作成し、動画の共有方法について追記した。また、「ビデオ参加者以外は非表示」機能を使っての面接練習は有効であった。

### <参加者の様子と感想>

6名の参加（ほかスタッフ4名）。事前接続テストでは動画の共有に戸惑っていたが、当日は講座もスムーズに進み、気づきの多い充実した講座であった。

## 7 最後に

8月の寄稿時に「オンライン講座は、何をどこまでできるのか？」という挑戦であり、新しいカタチとして大きな可能性を秘めていると思う」と書いた。いまやオンラインの研修会は当たり前のように行われるようになっている。

オンラインになったことで、北海道と青森では、若手スタッフが活躍し、組織が若返るきっかけとなった。そのスタッフからは、今回学んだZoomの知識がコロナ禍の学校祭や休校時の授業、教育相談に役立ったと聞いている。

運営面では、会場費や講師の交通費・宿泊費がかから

ず、受講料がほぼ半額となり、受講者にとっても時間や経費の負担面からも受講しやすくなっており、教育カウンセリング講座を普及する大きなチャンスである。

北海道では、全国のZoomを使った教育カウンセリング講座を主宰する仲間に向け、『Zoom設定マニュアル』（CVPWG 伊藤事務局長 10月25日発行）を作成した。Zoom等のアプリは日々バージョンアップしており、『Zoomアプリの手引き 10.08 ホスト向け追補版』（10月8日発行）を作成した。これからも全国の仲間と情報を共有しながら、講座を運営していきたいと考えている。

最後にHKKの今後のオンライン講座を紹介する。全国からの参加をお待ちしています。

### <来年の1月から3月の予定>

- 1月9～11日：2020年度冬季オンライン教育カウンセリング特別講座～10月25日から受付開始、定員（24名）になり次第締切
- 1月31日：カウンセリング面接オンライン講座基礎編～12月6日から申込開始、定員（12名）になり次第締切
- 3月6日：オンライン スペシフィックSGEアドバイザー養成研修（兼）1日参加体験～1月10日から申込開始、定員（24名）になり次第締切

オンライン講座等の情報に関しては、随時HKKのHPに（<https://www2.hp-ez.com/hp/hkk/>）アップしますので、ご覧ください。

なお、今回紹介した講座の動画等は、北海道教育カウンセラー協会のHP、ならびに本部HPの研修動画に掲載されています。

### ◇支部実践報告◇【秋田】

## 新型コロナのもとでの研修について

秋田県教育カウンセラー協会事務局長  
阿部 千春

今年2月のマスク入手が困難な時期に、新型コロナウイルス感染症対策を慎重にとりながら「教育カウンセリングCollege in 秋田」を開催させていただいたことが、いま振り返りますと、奇跡のようにも思えます。参加者41名のうち、約三分の一の方々が秋田県外からご参加くださいました。秋田県内からは新たな参加者も多くみられ、教育カウンセリングCollegeが秋田での初開催であったことが、受講への期待や動機づけを高めたのかもしれない。さまざまな実践研究テーマでの発表を通して、受講者相互の感情や思考の交流ができ、学びを広げ深めることができたように思います。

## 1 新型コロナウイルス感染症対策下における研修

秋田県支部は、2003年度の設立当初から役員間の連絡ツールがメールであったため、コロナ禍でも特に支障が出ることはなかったのですが、オンラインによる事業開催に向けてのノウハウやスキルが十分ではなく、なかなかスタートを切ることができませんでした。

今年度に入り、最初に開催した事業は、いじめをテーマにした講演会（オンラインによるライブ講演）です。新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療従事者やその家族等の方、感染された方等に対する偏見や差別、いじめ等を見聞きすることが増え、いじめについて学び直し、深める機会を設けました。

講演会の講師をオンラインの操作に慣れている荻間澤勇人先生（会津大学文化研究センター教授）に務めていただいたおかげで、スムーズに進行することができました。オンラインによる講演のため、隣県の山形県からも多くの方に参加していただきました。

社会学の視点から見たいじめ成立の3要因「いじめの許容空間」「いじめ衝動」「ヴァルネラビリティ（攻撃誘発性）」（竹川，1993）とそれを解消する手立てや、組織で支えるいじめ対応のあり方や未然防止の基本などについて学ぶことができ、今後の学校での指導援助において役に立つものでした。印象的だったのが、「あいづっこ宣言」にある「やっではならぬ やらねばならぬ ならぬことはならぬものです」（超自我）であり、いじめに関していえば、「弱い者をいじめてはいけない」であり、このような規範意識を幼児期から育てていくことが大切だと感じました。

また、コロナウイルス感染症拡大により、多くの人が不安や恐怖を感じたことと思われます。そのような感情との向き合い方やコントロールの仕方、サイコエジュケーション（他者理解、思いやり、共感、感謝の念等）など、いまこそ教育カウンセリングの学びが求められていると思います。現在目の前にいる児童生徒の状態を把握しながら心理教育を行うことで、セルフマネジメントする力を高めたり、心の環境を整えることに繋げていけるとよいでしょう。

### 6. いじめ発生後の対応と指導

(4) 組織で支え合う (以上、荻間澤，2016)

- ①組織で支えるいじめ対応
  - ・パーソナルな人間関係とソーシャルな人間関係、組織のシステム、個人の役割意識、個人のスキルの積み重ね
- ②組織のシステム（いじめ対応委員会、援助チームなど）
  - ・専任
  - ・情報の共有
  - ・定期的なアンケートの実施
  - ・いじめ防止イベントの実施
  - ・定期的な教員研修
- ③人間関係づくり
  - ・ふだんのマナーが大切
  - ・ちょっとしたフォロー
  - ・管理職の率先垂範、毎日コツコツ、気づいたら自分から
  - ・役割を通じた交流、プライドに配慮して、解決志向で



11月21日（土）は「学力育成」をテーマに研修を行い、奈良恵子先生（秋田市立太平中学校校長）より「学力育成」をテーマに「学校と地域社会の連携・協働のあり方」に関する実践研究を発表いただきます。その後、昨年度アメリカで在外研究（幼児教育）に取り組まれた瀬尾知子先生（秋田大学准教授）より「アメリカと日本の幼児教育の違いについて私が感じたこと」について報告いただきます。

その後で秋田県支部の役員のみで交流する場をもち、「実践報告」や「コロナ禍での気づき」などについて、それぞれの思いや情報などを共有します。今回の交流会はオンラインの操作に慣れる練習も兼ねております。

今後の事業開催を通して、一方通行の情報発信のみではなく、オンラインの強みやよさを生かし、質疑応答、ブレイクアウト（グループシェアリング）、アンケート実施（紙上シェアリング）など徐々に使える機能を増やしていくことを課題にし、支部役員で楽しみ学び合いながら実践的なスキルを身につけていきたいと考えています。

## 2 新たなコミュニケーションのとり方を試行錯誤する

コミュニケーションをとることが重要とされるこの時代に、新型コロナウイルス感染症が拡大していることは、人々に真のコミュニケーションのとり方やあり方について問いかけているようにも思えます。

現在は、研修会等でのface to faceのコミュニケーションがなかなかむずかしい状況であり、オンラインでの新たなかわり方を模索していきたいと考えています。あ

### 4. いじめの構造

(1) いじめ成立の3要因 (竹川 (1993) から作成)

らかじめどのような配慮やルールがあれば、交流のしやすさにつながるかを検討していきたいと思います。たとえオンラインであっても、たとえ機器に関して技術的に十分なスキルをもっていないとしても、その人の人柄や思いが伝わってくるような進め方について SGE の原理を活用しながら検討し、徐々に試行成功を増やしていければよいと思っています。

## 2021年の秋田大会に向けて

2021年 オンライン秋田大会  
「学ぶ力と生きる力の統合を支える教育カウンセリング——子どもの真の学力の形成をめざして——」

2018年2月に支部内に学会実行委員会を立ち上げて準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため来年度に延期となり、現在のところ、オンラインでの研究発表大会を予定しております。学会理事長の河村茂雄先生をはじめ、常任理事の皆様のご温かく適切なご指導ご助言のおかげで、コロナ禍でも前向きに準備を進められていることに感謝しております。

withコロナにおける「ニューノーマル」を取り入れるなか、心のつながりを大事にし、心の距離を縮められるように、“心はいつもつながって (Keep in touch!)”を胸に掲げ、準備を進めています。

事務局を務める私自身が地元の秋田に足を運ぶことが困難な状況のため、支部役員や旅行会社、オンライン担当者の方とはオンラインでの会議を適宜実施しています。

来年度の秋田大会に向けて、「秋田ならではの魅力」をお伝えできるように、支部代表の荻間澤勇人先生をはじめとして、支部役員一同で鋭意努力しております。

パソコン等の機器類の操作については、はじめの一步がおっくうではありますが、より参加しやすい「場」を提供できるように準備を進めておりますので、オンライン秋田大会にぜひご参加いただければと思います。「まんず 秋田さ あべ！」

### ◇支部実践報告◇【青森】

## 新型コロナのもとでの研修について

青森教育カウンセラー協会事務局長  
尾崎 洋子

### 1 はじめに

青森教育カウンセラー協会の活動は、元気アップ・スキルアップをめざし、さまざまありますが、例年おもな活動の柱は3つです。1つ目は、毎月1回行われるケース会議です。2つ目は夏と秋に3日間行われる養成講座

です。リピーターの方も多く、またどちらも教員免許状更新講習の選択講座にもなっており、夏の講座はA、Bコースに分かれそれぞれ80名くらい（計160名くらい）の参加者の方がいます。秋の講座は同じく3日間ですが、3日間を3人の講師の方が担当し、テーマを深く学ぶことができます。3つ目はSGEの研修会です。6月（ジェネリック）、11月（スペシフィック）、2月（リーダー研修会）の3回実施しています。公認リーダーを中心にスタッフ7名、参加者28名、計35人くらいの規模で行っています。

その他、ホームページの開設、ニュースレターの発行、中級試験、公認心理師受験者へのサポートなどを、会員がそれぞれ役割をもち、実践しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナと表記）の感染状況により、なかなか計画どおりに進まないこともありますが、新型コロナの感染は、いつでも、どこでも、誰にでもおこりうるものとしてとらえ、状況に応じた活動方法や内容が求められるという認識のもと、今年度の実践について記したいと思います。

## 2 求められる臨機応変の対応

新型コロナのもとでの研修で大切なことは、危機管理を徹底して参加者の安心・安全を第一に考え、運営に努めることだと思います。

そのために、まずは地域のコロナの感染状況の実態を把握し、直接対面で研修ができる状況なのかどうかを判断し、臨機応変の対応を想定しておくことが必要です。

### (1) 直接対面でできる場合に安全対策として運営する側が心がけること

- ・ 入り口での検温、手指のアルコール消毒
- ・ アンケート記入への協力依頼（健康状態や県外移動歴等）
- ・ 三密を避けるための準備（半分の定員、換気、マスクの着用、フェイスシールドの準備など）
- ・ 座る場所の工夫（隣、前後はあけながらグループ作りしやすいように）
- ・ 使用場所、使用物の清掃、消毒（使用前後の徹底）

### (2) 直接対面でできない場合の対策

- ・ やむを得ない場合は中止を選択し、速やかに参加者に通知をすること
- ・ 遠隔でも対面でできるよう、zoomなどの活用を図り、オンラインで実施できるよう準備しておくこと

## 3 研修の実際

### (1) ケース会議について

青森支部ではケース会議を毎月第4金曜日に、青森明